



防災

ご家庭での防災

安全ガイドライン



火災危険に関するご要望やご不満等は

電話番号 **2723 8787**

にまでご連絡いただくか、消防署へご連絡ください。

ご家庭での防災

安全ガイドライン

Jointly produced by the Fire Services Department
and the Information Services Department
Cover photograph provided by Apple Daily

序文

香港は建物が密集している人口過密都市です。万が一、火災が発生すると、容易にかつ素早く火災が広まって大惨事を招く可能性があります。当署には十分な訓練を受けた消防隊を配置しており、最新型の消火装置ならびに機器を備えて、人命や財産の喪失を最小限に抑える努力を行なっております。しかしながら、不注意あるいは基本的な火災安全対策の不履行によって、家庭内における人為的な火災事故が依然として毎年多数発生しております。こういった火災は頻繁に自宅破壊ならびに家族の命や財産を失うという惨事を引き起こします。

人命や財産を保護するために、我々は火災の危険となりうるあらゆる可能性に注意を怠らず、自宅を安全な場所とするための防止措置を講じる取る必要があります。



ご家庭での防火対策

以下に、リビングルーム、台所、寝室、浴室、廊下、階段、屋根等を含めた自宅の各エリアから火災から守るための手順、ならびに火災の危険となりうるあらゆる事項を詳細に記載しております。以下に記載する防止措置を順守していただければ自宅や財産を火災から守ることができるはずです。

リビングルーム

とりわけ、建具ならびにリビングに設置してある張り椅子や電化製品といった家具に注意を払う必要があります。

気泡ゴムや繊維が埋め込まれた家具

ソファや椅子での喫煙の際は灰皿をご使用ください。煙草の吸殻をソファや椅子の上に置かないでください。とりわけ、気泡ゴムや繊維が埋め込まれたソファまたは椅子には注意を払う必要があります。というのも、火が完全に消えていない煙草の吸殻から簡単に点火して、結果として、火災ならびに有毒ガスや煙の発生につながるからです。

マッチやライター

マッチや煙草のライターは子供の手の届かない場所に保管してください。

灰皿

灰皿は、煙草が転がって床や火災を引き起こすような可燃性物に落ちないように、十分な大きさを持った適切な形状のものをご使用ください。火のついた煙草は常にきちんと火を消してから廃棄してください。

テレビとラジオ

テレビやラジオの後部に十分なスペースを確保して、室内の熱上昇を防ぐための換気孔を塞がないようにしましょう。テレビを使用しない際は電気コンセントを抜いておくことをお勧めします。

エアコン

エアコンを取り付ける前に既存回路に過電流とならないかどうか確認する目的で電気定格を調べましょう。目詰まりしたフィルターは過剰モーターの原因となります。そのために、エアコンを定期的にメンテナンスまた掃除するようにしましょう。



電気製品と電気回路

品質保証された電気製品をお選びください。電気回路と回路保護に注意を払うようにしましょう。過負荷電気回路や一つのソケットに二つ以上のアダプターを差し込むのは避けてください。また一つのソケットに沢山のプラグを接続しないでください。裂け目、加熱兆候（例、変色、黒焦げ、ひずみ）、あるいは緩みのあるソケットは使用しないでください。

ヒューズが飛んだり、あるいはブレーカーが落ちるような場合には、一つの回路上で多くの電化製品が作動している恐れがあります。万が一、電化製品を全く接続していないにもかかわらず、ヒューズが飛んだり回路ブレーカーが落ちるような場合は、配線に何かしらの問題があることが考えられます。速やかに正規の電気技師に点検させる必要があります。



電気配線

延長コードならびにランプや電化製品のコードは誤用しないようにしてください。通路の邪魔や家具の重みにさらされるような場所に設置しないでください。じゅうたんやカーペットの下に設置しないでください。濡れた手で電源、スイッチならびにプラグに触れないでください。全ての取り付けを定期的を確認、あるいは少なくとも年に一度は確認するように心掛けましょう。



照明設備

備え付けの電灯照明設備を定期的な点検して、正常に動いているかどうかを確認してください。照明設備に過熱、点滅ならびに不規則にまぶしく光るといった異常な状態が見られた場合は、電源を切り、登録電気技師を呼んで点検を行なってください。使用していない照明設備は電源を抜いておきましょう。また、使用中の照明設備は可燃性物質から離れた場所に設置して熱が分散するようにする必要があります。

金魚鉢

金魚鉢の送水ポンプやフィルターを定期的な掃除して、過熱やショートによる火災を防ぐようにしましょう。

台所

台所は燃料、マッチならびに料理油が保管されている場所です。比較的沢山のガスや電気製品が設置され、かつ可燃性物質が保管されている台所は、ご家庭の他の場所以上に事故が発生しやすい場所です。したがって、台所で作業する際は、火災防止や家族の生命保護のために、よりいっそうの注意を配る必要があります。

コンロの周辺

コンロは、紙くずやその他の可燃性物質といった残骸やくずのないように常に気を配りましょう。定期的にコンロを掃除して、油脂が蓄積しないようにしましょう。

燃料

(常に一箱以下の) 液化石油ガスや灯油などの調理用燃料はコンロや熱源から離れた場所に保管してください。火が付いている際に石油コンロや石油ヒーターに灯油を補充しないでください。灯油は金属性の容器に入れ、しっかりと蓋を閉じて保管してください。

料理

調理をする際は細心の注意を払いましょう。過度の燃焼や煮込みをしないよう気を付けてください。とりわけ、フライパンに調理用油を敷いたままにする等、料理を放置しないようにしてください。こまめにコンロの点検、掃除を行なってください。

ガス器具

ガス器具の設置は専門の技術責任者が行なう必要があります。必ず設置場所をよく換気するようにしてください。万が一、ガス漏れかな?と思われる場合:

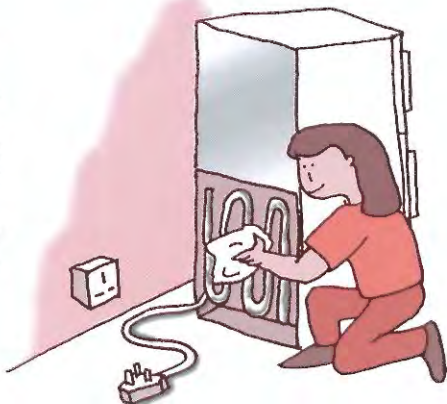
- 全ての裸火を消してください。
- 電話の使用あるいはあらゆる電気スイッチの操作を中断してください。
- すべての窓や戸を全開にして、ガスを追い散らしてください。
- 点火スイッチをうっかり作動してしまわないよう、ガス器具には触れないでください。その代わりに、圧力調整スイッチを使ってガス供給を断ってください。可能であればレギュレータをシリンダーから抜いてください。

- ガス漏れが深刻な場合、あるいは何らかの事情でどうすれば良いのかわからない場合は、速やかに自宅を離れて隣近所の人たちに避難するように知らせてください。しかしその際、玄関の呼び鈴は鳴らさないようにしましょう。階段を使用して建物を離れ、999をダイヤルして消防局に連絡したうえで、ガス供給会社の緊急連絡先に電話してください。
- ガスが再び漏れるのを防ぐためのあらゆる必要処置が講じられるまでは、ガスシリンダーを再接続しないでください。
- ガス供給会社が安全性を確認するまでは、ガスシリンダーやガス器具を含むガス設備の使用を開始しないでください。



冷蔵庫

火災の主要な危険は、モーターやコンプレッサー、ファンあるいはコイルの上に埃や糸くずの大量堆積を放置することにあります。こういった状態は、冷蔵庫の内壁やその他のプラスチック部品内の発砲プラスチック絶縁体に火災が広がる危険性を伴った、過負荷や故障を引き起こす結果となります。冷蔵庫のコンセントを抜き、定期的に電動コンプレッサーに堆積した埃を取り除くようにしましょう。後方に排気する古い冷蔵庫は壁から間隔を空けて設置して、空気がとめどなく流れるのを可能となるようにする必要があります。



アイロン掛け

放置して忘れたままになったアイロンの過熱は服を焦がしてしまうことがよくあります。ですから、とりわけアイロン板が木製であったり、布で覆われたものである場合は危険となります。

エアゾール・スプレー

エアゾール・スプレーは過度の熱に触れると爆発する恐れのある加圧容器に詰められています。

- 殺虫剤を過度に使用しないでください。
- 裸火やその他の発火源の付近に吹きかけないでください。
- 直射日光が当たる場所や発火源付近の場所にエアゾール・スプレーを置かないでください。
- 涼しく乾燥した場所にエアゾール・スプレーを保管してください。



線香と紙の燃焼

線香や紙は鉄製容器の中で燃やすようにして、くずやカートン箱のような可燃性物に近づけないでください。すべての灰を完全に消火してから廃棄してください。

寝室

火災による死亡事故の大多数は寝室で発生しています。ほとんどの火災は家族が夜寝静まった後に発生しています。逃げ場を失って焼死される方もいますが、ほとんどの死亡事故は煙やガスによる窒息死です。寝室の家具、衣類、カーテンやベッドカバーが全て可燃性であるため、寝室の防火対策は軽視することができません。

煙草の吸い殻

ベッドでの喫煙はお止めください。敷き布団は火のついた煙草から引火します。煙草の吸い殻を消してから灰皿に処分してください。

ヒーター

ヒーターをベッド、長椅子や椅子に近づけすぎないでください。ヒーターの上で衣類を乾かさないうでください。ヒーターが適切に置かれていて、簡単に倒れないかどうか確認してください。

エッセンシャルオイル

- ほとんどのエッセンシャルオイルは可燃性液体です。多量のオイルを保管しないようにしてください。直射日光を避けて、子供の手の届かない場所に保管してください。
- 噴霧器を使用する際は、部屋の換気を良くしましょう。バーナー・タイプの噴霧器を易燃性物質のそばや、風の当るような位置に置かないでください。噴霧器は放置しないようにしてください。オイル補充は火を消してからにしてください。ヒビの入った噴霧器は使用しないでください。
- 電動噴霧器に水を入れすぎると、水が溢れて外側部分や電源コードが濡れることがありますのでご注意ください。

就寝前に周囲を確認してください

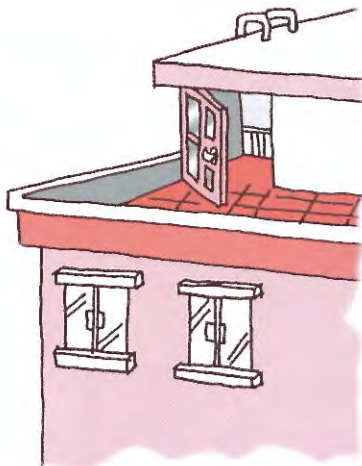
- 台所、リビングルーム、寝室のドアを閉めてください。就寝中万が一火災が発生した際、火が広がるのを防ぎます。
- 全てのガス器具や灯油ストーブの電源を切り、煙草の火が消えているかどうか確認してください。
- 必ず、ラジオ、テレビやポータブルヒーターなどの電化製品の電源を切り、電源のプラグを抜いてください。



屋根

屋根の非常口がカギを使わずに内側から容易にかつうまく開くかどうか確認してください。

障害物を屋根から取り除いてください。火災の際、一時的な避難場所となることがあります。



保護廊下

保護廊下の自動閉鎖ドアは常に閉めておいてください。

階段

階段に障害物を置かないでください。火災の際、階段は重要な避難方法となります。



エレベーター

建物内で火災が発生しているのではないかどうか疑わしい時は、エレベーターは使用しないでください。

ドアと門

使用する門は、開けた際に通路、バルコニーや階段の妨げとならないようにスライドタイプである必要があります。



塗装

塗装期間中は、とりわけ高変動性の可燃性液体を取り扱う際は、ハンドペイント、シンナー、その他の可燃性液体を注意して取扱しましょう。

必要でない場合、ガソリン、灯油やシンナー等の可燃性液体を保管しないでください。適用外の量の無指定危険製品を上回る可燃性液体を保管しないでください。

ポリウレタン研磨後は、電源や点火する前にすべての窓を開けて、室内に蓄積した可燃性ガスを追い出してください。

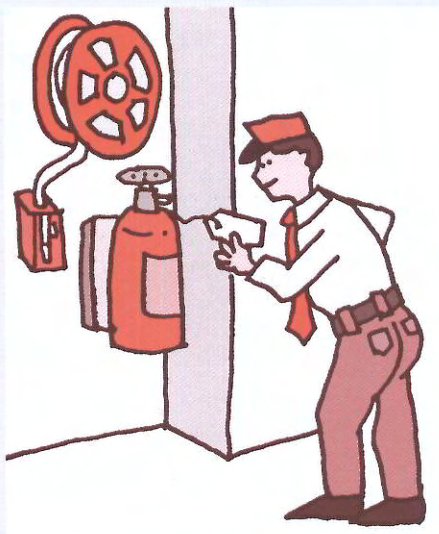


消火機器の取付

家族各自が建物内に設置されている（消火器やホース巻き等の）消火機器の取扱方法を熟知している必要があります。

消火機器は安全な状態で、かつ使いこなす自信がある時のみ使用するべきです。消火機器を使用するのに手間取って避難が遅れてしまっはいけません。

すべての消火機器は少なくとも各 12 か月に 1 回は登録業者に依頼して点検すべきで、何かしらの異常があった際は速やかに修繕を行なう必要があります。通常、消火器はポヤを消すために使用されます。



下記に紹介するのは一般的なタイプの消火器と防火用毛布、ならびにそれらの使用方法です：



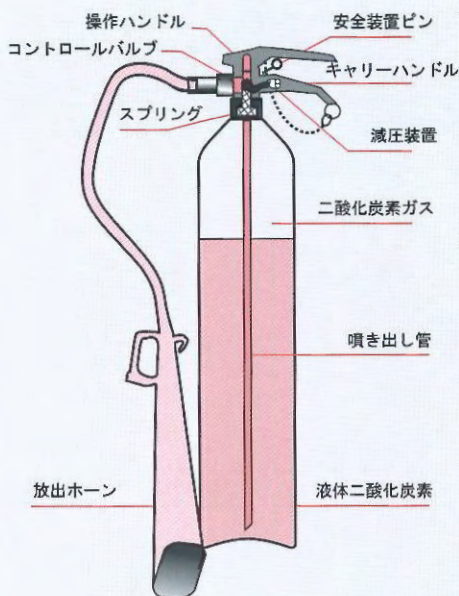
1. 炭酸ガス消火器

用途：漏電による火災、可燃性液体、精密機器ならびに重要書類を伴う火災、あるいは狭い場所での火災に使用。

注意：蒸気による窒息が起こります。使用後は外気にさらしてください。

操作方法：

- 消火器を火災現場まで持ってゆき、安全距離を保ちます。
- 操作ハンドルの安全ピンを引き抜いて燃焼物めがけて放出ホーンを向けます。
- 操作ハンドルを押すとコントロールバルブが開きます。放出ホーン内の液体二酸化炭素が揮発して広がり、その後、火元方向に向けた放出ホーンから排出されて燃焼物をもみ消します。
- 火を消し終わったら操作ハンドルを緩めてガス放出を停止します。





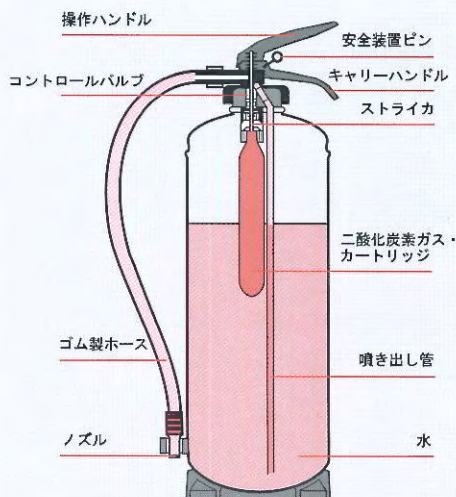
2. 水消火器

用途：木材、繊維製品や紙類を伴う火災に使用。

禁止事項：電気または可燃性液体あるいは金属類を伴う火災への使用。

操作方法：

- 消火器を火災現場まで持ってゆき、安全距離を保ちます。
- 安全ピンを引き抜いて燃焼物めがけてノズルを向けます。
- 操作ハンドルを押します。ガスカートリッジ消火器の場合、ストライカがガスカートリッジに穴を開けます。その後炭素ガスが放たれて同時にコントロールバルブが開きます。貯蔵圧力消火器の場合も、コントロールバルブが開いてシリンダー内の水がノズルから押し出されます。ノズルは、燃焼物の消火を行なう際に火元に向ける水ジェットの方角を調節することができます。
- 火を消し終わったら操作ハンドルを緩めてガス放出を停止します。



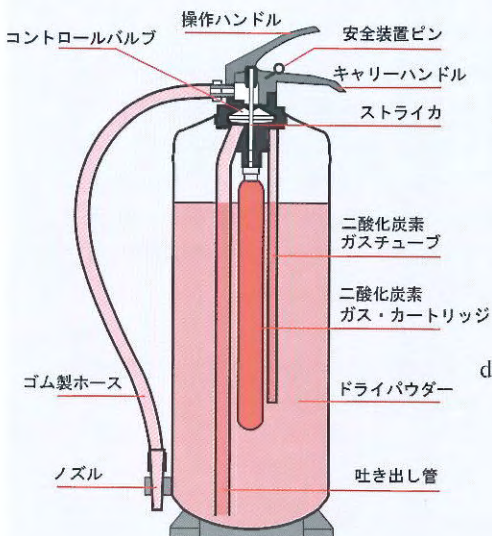


3. ドライパウダー消火器（ガスカートリッジ/貯蔵圧力）

用途：大抵の火災、可燃性液体、金属火災、電気火災に使用。

操作方法：

- a. 消火器を火災現場まで持ってゆき、安全距離を保ちます。
- b. 操作ハンドルの安全ピンを引き抜いて燃焼物めがけてノズルを向けます。
- c. 操作ハンドルを押します。ガスカートリッジ消火器の場合、ストライカがガスカートリッジに穴を開けます。その後炭素ガスが放たれて同時にコントロールバルブが開きます。貯蔵圧力消火器の場合もコントロールバルブが開きます。両方の消火器ともに、シリンダーに蓄積された乾燥粉末が自動的にノズルから噴出します。ノズルは調節可能なので、乾燥粉末を火元方向に向けて燃焼物の消火を行なうことができます。
- d. 火を消火し終わったら操作ハンドルを緩めてガス放出を停止します。



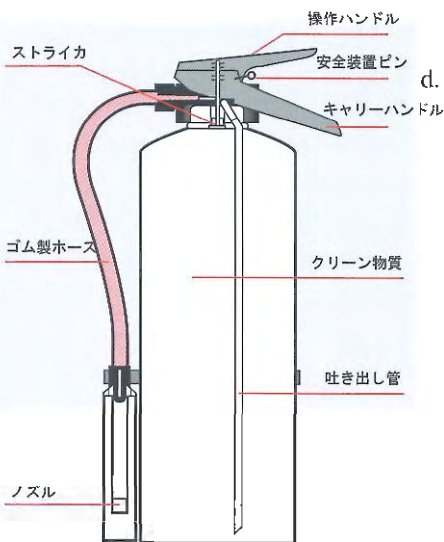


4. クリーン物質消火器

用途：電気火災、可燃性液体、精密機器ならびに重要文書を伴う火災に使用。

操作方法：

- 消火器を火災現場まで持ってゆき、安全距離を保ちます。
- 安全ピンを引き抜いて燃焼物めがけてノズルを向けます。
- 操作ハンドルを押すとコントロールバルブが開きます。火元方向に向けたノズルからガスが排出されて燃焼物をもみ消します。
- 火を消火し終わったら操作ハンドルを緩めてガス放出を停止します。





5. フォームタイプ消火器（ガスカートリッジ/貯蔵圧力）

用途：可燃性液体を伴う火災に使用。

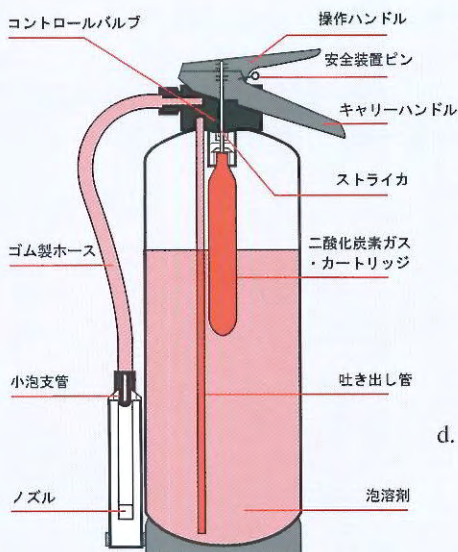
禁止事項：電気火災への使用。

操作方法：

- a. 消火器を火災現場まで持ってゆき、安全距離を保ちます。
- b. 操作ハンドルの安全ピンを引き抜いて燃焼物めがけてノズルを向けます。

c. 操作ハンドルを押します。ガスカートリッジ消火器の場合、ストライカがガスカートリッジに穴を開けます。その後炭素ガスが放たれて同時にコントロールバルブが開きます。貯蔵圧力消火器の場合もコントロールバルブが開きます。両方の消火器ともに、シリダーに蓄積された泡溶液が自動的にノズルから噴出します。ノズルを調節すると、燃料油または可燃性液体をすべて流し尽くすまで泡が容器内壁と反対方向に向いており、やがて火をもみ消します。

- d. 火を消火し終わったら操作ハンドルを緩めてガス放出を停止します。





6. 防火用毛布

用途：台所や研究室のボヤ等の可燃性液体を伴う火災に使用。

取扱方法：入れ物から毛布を取り出して火炎を覆うようにしてかけて空気を密閉します。熱源を消したら燃烧物が冷めるまで毛布をそのままにしておきます。



緊急対策の立案



- 火災の際の綿密な緊急避難経路を家族と一緒に用意し、集合場所を決めておきましょう。最も危険な時間は、家族が寝静まった夜間です。代替りの方法や避難経路も事前に計画し、速やかに避難できるように準備しておきましょう。消防局やお住まい地域の管理事務所が主催する防火ミーティングや消防訓練には積極的に参加してください。
- 自分自身で避難できない病人、高齢者、障害者や子どものための特別措置を用意しておきましょう
- 夜間の消防訓練を実施して、最も現実的な対策を立てておきましょう。
- 建物から避難する際、避難経路にある全てのドアを開けましょう。そうすることによって、煙や火の広がりを抑え、結果として生じる損害を減らすことができます。
- 火災の際はできるだけ早く 999 をダイヤルして消防局に通報しましょう。
- しかるべき維持管理が防火対策には必要不可欠です。万が一、火災の対処にあたることになった場合は、冷静に対処しましょう。

油脂や油を伴う火災について



- 炎のついた油脂や油に直接水をかけないでください。
- 炎のついた油脂のフライパンを持ち運ばないでください。
- フライパンの油脂や油を伴う火災を消火するには、ガス供給源を切って蓋か皿でフライパンを覆ってください。もしも衣類、料理油あるいはその他の可燃性液体に引火した場合、防火用毛布を使用して消火してください。防火用毛布は、円筒金属容器に保管して壁に取り付けておいてください。
- 水は、火が広がった際、周囲にのみ使用してください。

電化製品の火災に際して

すべきこと

主電流のスイッチを切るか電化製品のプラグを抜いてください。

すべきでないこと

電源の入った電化製品に水を掛けないでください。

使用できるもの

電化製品を起因とする火災に乾燥粉末や炭酸ガス消火器を使用してください。ただし、電流のスイッチを切ることを忘れないでください。

着ている服に引火した場合の対処法

- 着ている服に引火した場合、顔の方へ火が移動しないように、すぐに横になり、そして床を転がってください。「倒れて、転がる」
- 床を転がりながら、ブランケット、カーペット、コート、カーテン、部屋着、タオルといった織布に包まることができれば申し分ないでしょう。しかしながら、こういった織物を探すことで横になるのが遅くならないようにしてください。
- 誰かの衣類に引火した際に居合わせていたら、その人にすぐ横になるように指示しましょう。そしてじゅうたん、マットならびにカーペット等を掴んでその人を包んであげてください。その際、自分自身の衣類に引火しないように注意してください。



法的要件

避難手段を妨害するようなものを置いたり、あるいは避難手段に鍵を掛けることは犯罪です。前述の犯罪は事前の警告なしに直接起訴されることがあります。

前述の罪を犯した人には、初犯の場合\$100,000の罰金、2度目の場合は\$200,000の罰金と1年間の実刑が課せられます。さらに、いかなる場合でも、犯罪が継続している期間中は1日当たり\$20,000の罰金が別途課せられます。

(2004年1月1日から効力を有する)